

科目名		担当教員名	学期
財務会計概論 Basic Financial Accounting Theory		富塚 嘉一	前期
目的	財務会計の基礎理論を国内の会計制度を中心として学習する。これは、「国際会計」「国際会計実務」などの発展科目を履修するにあたって必要な知識であり、したがって国際会計を理解するための導入科目でもある。		
概要	<p>総論 財務会計の目的・機能、管理会計との違い、会計公準の意義、日本における会計制度の特質（金融商品取引法会計、会社法会計、税務会計）、会計原則（GAAP）の形成プロセス（日本、アメリカ、国際基準）、概念フレームワークの意義など。</p> <p>各論 財務諸表の諸項目、キャッシュ・フロー計算書、連結会計などについての解説。</p> <p>*適宜、企業の財務諸表を分析・検討する。</p>		
到達目標	財務会計の基本論点に関する理解を深め、国際会計等の応用課題を考える基礎を形成する。		
成績評価の基準と方法	中間（30%）と最終（30%）に理解度確認の試験を行い、また、授業内容と関連したレポート（数回）と授業中の参加度合い（質問等）（40%）も考慮して総合的に判定する。なお、A、B、C、D又はEの相対比率は、2：4：3：1を目安とする。		
履修条件	「財務会計入門」レベル（日商2級レベル）を身につけていること。		
授業計画			
第1週	<ul style="list-style-type: none"> 前半: 授業ガイダンス(30分×3回) 後半: イントロ抱くションー現代の企業会計 (IFRS へのコンバージェンス等) 		
第2週	<ul style="list-style-type: none"> 企業会計の本質とフレームワーク（会計の機能、収益費用観と資産負債観等） 		
第3週	<ul style="list-style-type: none"> 会計制度の論理と体系(会計制度の法体系、監査、国際的統合化等) 企業のディスクロージャー(会社法、金融商品取引法、自発的ディスクロージャーなど) 		
第4週	<ul style="list-style-type: none"> 損益計算書のパラダイム(費用と収益の認識・測定、実現主義の変遷等) 		
第5週	<ul style="list-style-type: none"> 経営パフォーマンスの測定と表示(損益計算書による評価、キャッシュ・フロー計算書等) 		
第6週	<ul style="list-style-type: none"> 貸借対照表のパラダイム(資産の分類・評価、負債・純資産の部の分類等) 		
第7週	<ul style="list-style-type: none"> 資産会計(当座資産、有価証券、棚卸資産、有形固定資産、無形固定資産、投資等、繰延資産等) 		
第8週	1～7週までのまとめと理解度チェック		

第 9 週	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の解説 ・ 持分の会計(金銭債務、社債、引当金、払込資本、留保利益、株主資本等変動計算書、等)
第 10 週	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金融商品の会計(有価証券、デリバティブ、ヘッジ、認識の中止等)
第 11 週	<ul style="list-style-type: none"> ・ 従業員給付の会計(企業年金、年金資産・負債・費用の測定、退職給付引当金、ストック・オプション等)
第 12 週	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連結グループの会計(連結の範囲、資本連結、持分法、親会社概念とエンティティ概念、支配概念等)
第 13 週	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業結合・事業分離等の会計(合併、事業分離、持分プーリング法とパーチェス法等)
第 14 週	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9～13 週までのまとめと理解度チェック
第 15 週	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の解説 ・ グローバリゼーションの会計(外貨建取引の換算、在外支店・在外子会社の財務諸表項目の換算等)
テキスト 参考書等	<p>【テキスト】『新・現代会計入門』伊藤邦雄著（日本経済新聞社） なお、テキストを補足する資料を適宜、配付する予定。(common y-drive において、フォルダー名「冨塚」内にアップロード)</p> <p>【参考書】『現代会計学』新井清光著・川村義則補訂（中央経済社）</p>
その他 特記事項	<p>※ 毎回の授業では、質疑応答によって理解を深めることをねらいとしているので、テキストの該当する箇所を予め読み込んで、疑問点など考えておくこと。</p> <p>※ 授業が終了した部分につき、不明な点など確認し、次回までに整理し、必要に応じて質問して欲しい。</p> <p>※ 質疑応答、ディスカッションを通して理解を深めて行くので、事前に予習をして積極的に参加して欲しい。</p>